

入賞

世界中に福島サポーターの輪を広げる ＜Fukushima × SDGs × Football＞ プロジェクト

京都教育大学附属京都小中学校 7年

いしざき しゅうや
石崎 脩也

私は今回、学校の活動をととして「福島学カレッジプレイベント 伝承館 オータムセミナー」に参加しました。その活動に参加して私が学び、考えたことをふまえ、「福島」の未来を創造するためのアイデアを提案したいと思います。

セミナー1日目、私は伊達市霊山の旧仮置き場を見学しました。地主さんによると仮置き場になる前は荒地だったそうですが、仮置き場になったことをきっかけに空き地の再利用を考え、現在は芝を育てていると話していました。次に、飯舘村長泥地区に行きました。そこでは処理土の再生利用の実験をしていて、野菜や花の栽培をしているとのことでした。

2日目は、震災で亡くなった方々の慰霊碑が建立されている大平山霊園を訪れた後、双葉町の伝承館に行きました。そこは、木の温かみを感じる施設で、広大な芝生が見える海のテラスには、大津波に襲われている写真と現在の写真が飾られていました。この2枚の写真を通して、改めて震災の恐ろしさを実感することになりました。一方で、被災した学校の写真にある黒板に、「私達には負けない明日があるから!!」というメッセージが刻まれていたことが印象に残りました。このメッセージを通して、震災直後から「福島」の人たちは未来に向けて歩み始めていることを感じました。午後は、現地の人たちと対話する機会があり、震災後に起こった多くの悲しい出来事を知ることになりましたが、一方で、人生の様々な困難を

「震災」のせいにすることなく、前向きな姿勢で生きる人たちの姿や復興を支援する人たちの思いにふれ、「今できることを一生懸命がんばる」ことの大切さを深く学びました。

私はこれまで「福島」を、「支援が必要な、かわいそうなところ」と、どこかで思っていたのですが、今回の活動を通して、実際に「福島」と出会い、そうではないことに気づき、心が動かされました。

「福島」の人たちは、これからの「福島」の未来を前向きに考え、すでに動き出しています。私は、これからもっと積極的に「福島」と関わり、私にできることを考え、発信するサポーターになります。

そこで、福島サポーターであり、サッカープレイヤーの私が提案したいのは、「サッカーワールドカップ福島大会」の開催です。Fukushima SDGs(福島が発信する持続可能な開発目標)を開催の理念とし、エコフィールド Fukushima(仮)で開催されるサッカーワールドカップを通して、世界中の人たちに「福島」の素晴らしさを知ってほしいです。



私は今回の活動を通して、広大な芝生と美しい花々に囲まれた自然環境と一歩ずつ歩みを進めて未来をつくっている人たちに出会い、サポーターになりたいと感じました。開催への一歩目は、アンダー世代の国際的なサッカー大会の開催です。世界中の子どもたちに「福島」と出会う機会をつくることで、サッカーだけでなく、「福島」の素晴らしさを発信するサポーターの輪を広げます。サッカーでパスをつなげてゴールを目指す時のように、このつながりを広げていくことが、福島の、そして私たちの未来を創造することにつながると考えます。